



【 今回の試験について 】

プラチナクラスでは、専門的知識を踏まえたうえで、利用者支援だけでなく、スタッフへの指導・マネジメントができる力が求められます。下記事例と設問に基づき、講義および実演指導を行ってください。

【 事例 】

■利用者：佐藤 恒一（さとう こういち）様 男性 82 歳 ■要介護度：要介護 3 ■診断名：レビー小体型認知症

■生活の場：特別養護老人ホーム（ユニット型） ■家族構成：長女（市内在住・週 1 回面会）

【既往・経過】

2 年前より物忘れが目立ち始め、当初はアルツハイマー型認知症が疑われていた。1 年ほど前から、「部屋に人がいる」「虫が床を歩いている」などの幻視が出現。日によって認知機能や動作能力に大きな差がみられ、最近では歩行時に動作が緩慢になる、転倒しそうになる場面も増えている。

【現在の様子】

- ・認知機能：日内変動あり。会話がしっかりできる時間帯と混乱が強い時間帯がある。
- ・身体状況：歩行は可能だがパーキンソニズムがみられ、動作がぎこちない。
- ・幻視：夕方から夜間にかけて出現しやすく、不安が強くなる。
- ・性格・生活歴：穏やかで几帳面。元会社員で、周囲に迷惑をかけることを極端に気にする。

【事故内容】

スタッフ A が佐藤様の自室に訪室すると、佐藤様が擦り這い(四つん這い)状態でおられる。佐藤様の後ろから肩を叩き「どうされました？」と、お声かけすると興奮状態で「知らん人が入ってきた。怖い」と言っていた。「そんな人はいませんよ」とスタッフ A は伝え、怪我がないかバイタルと共に確認しようとした所、「やめろ！」と大きな声で手を振り払い、その際に自分の手をベッドにぶつけて左手甲に 2×5 c m の表皮剥離が出来る。興奮状態が強くなった為、しばらくしてから処置、ボディチェックを行い対応する。

【問題 1】（設定時間／8 分）

あなたは特別養護老人ホームのケアマネージャーです。上記の事故内容の報告を受け、佐藤様への関わり方について指導の必要性を感じ、現場スタッフを集め、事故内容を踏まえ、認知症の方、また佐藤様への理解を深まる会議を行う事にしました。以下の視点を意識してホワイトボードを用いながら説明して下さい。

1. 認知症の種類と特徴
2. レビー小体型認知症の症状と不安になりやすい場面について
3. スタッフの関わり方のポイント

※試験官をスタッフに見立てて説明して下さい。

【問題 2】（設定時間／5 分）

この事故の対応をあなたがした時のやり方を実践した上で、最後に実演のポイントを説明して下さい。

※佐藤さんが椅子に座ってもらったところまでで終了とします。